

(活動報告書様式)

団体名	在宅介護を支える家族の会		
事業名	空き店舗活用で、交流を通して地域の支え合いへつなぎ、 高齢者の生活継続のための支援活動		
助成事業区分	協働助成事業（一般型）【県政課題：高齢者の居場所づくりの推進】		
団体の 所在市町村	村山市	事業費	1,082,467 円
		うち助成金額	500,000 円



■事業目的

団塊世代が 65 歳以上となり、地域で生活する高齢者世帯が増加。元気な高齢者が住み慣れた地域での生活継続、生きがいや健康づくり、多様な交流を推進し、介護予防につながる活動や地域づくりにも貢献できると考え、事業を行った。

■実施内容

①居場所づくり

毎週火・木・金に商店街にある空き店舗(旧宮本家具店)1Fを借りて、地域住民(主に高齢者)や会員等を対象に、身体機能の維持としての体操(3B体操、ラジオ体操、カイロプラクティック、リンパドレナージュ、山形県オリジナル介護予防体操など)、脳トレ(健康マージャン(写真①)、カラオケ(写真②)、ものづくり、輪投げ)、口腔・栄養管理としての教室(栄養バランスを考えた簡単料理(写真③)、食事会、歯科衛生士の講座や栄養士の講座と食事会)、地域のボランティアの慰問(なんちゃって村山舞妓、葉山舞踊会)、地元出身ソプラノ歌手の生歌、季節の行事、子ども食堂なども実施。

毎回 10 名程が利用。

②高齢者の買い物援助

おすそわけ産直、毎週火に生協の共同購入を取り入れることで、買い物援助と地域の支えあいを実施。

③世代間交流

花や野菜の鉢植え、ピアノで世代間交流を図った。また、利用者の希望でバラ公園やホースガーデン(馬)などに外出した。

■事業の成果及び今後の展望

①事業の成果

・各種体操や脳トレ、教室、交流、また、料理の手伝いや配膳、お茶出しなど高齢者が担い手にもなることで、会話や身体を動かす機会が増えたことで、動作が機敏になり、健康や栄養についてより理解を深めていると思われる。また、ストレス発散の機会や居場所ともなり、「こういう場所いいにゃ」「元気になる」「またお願いします」などの声が聞かれた。さらに、地域住民や関係団体に呼びかけたり、子ども支援団体の事業、世代間交流、助成金申請に関わることで、福

祉団体とのつながりや地域の支えあいが生まれた。

・地域住民との協働により、簡単料理や食事会、ボランティアの慰問などに取り組むことができ、高齢者の栄養管理、域住民同士の交流ができた。さらに、生協の共同購入を取り入れたことで、高齢者への買い物支援や栄養管理支援となっている。

②今後の展望

近くのコンビニがなくなった為、安くておいしいコーヒーの宣伝や障がい者作業所のチーズケーキ注文など若者も気軽に立ち寄れる居場所作り、子ども食堂の取り組みから学校やひとり親世帯などをつなぎ、食事や学習支援ができるような仕組み作りなどに取り組む。また、地域の農家の方々の協力も得ながら自家菜園にも取り組み、日常生活継続支援として可能な高齢者は、自ら調理して食事ができるよう調理場の追加整備、さらに、新たな参加者拡大の為、送迎方法は検討し、更なる事業展開に結び付ける。